

令和7年度 第1回 地方独立行政法人静岡市立静岡病院評価委員会 会議録

1 日 時 令和7年7月10日（木） 19時15分～20時00分

2 場 所 静岡県産業経済会館 第一会議室

3 出席者

（1）評価委員会委員

藤本委員長、青山委員、久朗津委員、杉原委員、鈴木委員、竹内委員

（2）静岡市

千須和保健衛生医療統括監、杉山保健衛生医療部長、降矢保健衛生医療課長、宇佐美主査、齊藤主任主事

（3）地方独立行政法人静岡市立静岡病院

小野寺理事長、前田副理事長兼病院長、大長副理事長、大畑理事、深澤理事兼副病院長、縄田副病院長、水野副病院長、青山副病院長兼看護部長、小長井事業管理部長、小林医事経営部長、平尾事業管理部参与兼総務課長、川口人事課長、小林施設課長、傳刀医事経営部参与兼医事課長、石川経営課長、望月総合相談センター副センター長、竹田教育研修管理センター参事、松野総務課参与兼参事、納本総務課副主幹

4 傍聴者 0人

5 会議内容

（1）開会

（2）保健衛生医療統括監挨拶

（3）委員等の紹介

（4）議事

①令和7年度評価委員会スケジュール等について

②令和6年度業務実績及び自己評価について

（5）閉会

議事内容

①令和7年度評価委員会スケジュール等について

○宇佐美主査

資料1「評価委員会スケジュール等について」に基づき説明

○藤本委員長

委員の皆さま、ただ今、事務局からの説明に対して御質問等はございますでしょうか。

(質問なし)

質問等無しとのことですので、スケジュールどおり会議を進めていくということですのでよろしくお願いします。

②令和6年度業務実績及び自己評価について

○平尾事業管理部参与兼総務課長

資料2「令和6年度業務実績報告書の概要について」に基づき説明

○藤本委員長

ありがとうございました。静岡病院から法人の業務実績と自己評価に関する説明を受けました。本日は説明のあった項目に加え、業務実績報告書の内容全般について、ご質問、ご意見をいただければと思います。ご意見の際には項目番号や項目名を読み上げてください。ご説明ありがとうございました。

○久朗津委員

資料2の2ページ、⑨です。小項目として、医療従事者の確保、細目として、医療従事者確保に向けた取組、です。こちらは数字の評価ということではなく、内容の評価ということになるかと思います。病院の自己評価はそれぞれ「a」ということで記載されておりますが、参考資料3の21ページ、22ページに内容の詳細が記載されており、22ページに医療従事者の参考値が記載されています。上段から医師、歯科医師の数で、令和3年から記載がありますが、令和5年から6年にかけて169人から177人と、8人増加しています。助産師、看護師は526人から545人で、19人増加。医療技術者は3人増加で、合計30人の増員です。令和3、4、5年とこの数字を見る中で、大きな増加はそれまではありませんでしたが、5年から6年にかけて大幅な人員増が図られています。これはかなり頑張っていたいただいた取り組みではないかと思います。

資料2の2点目に、市内出身医師、医学生を対象とした静岡市内の説明会、ドクターバック合同説明会を全国的に開いたという記載があります。細かいところを見ますと、従来の東京、大阪に加え仙台や博多についても継続してブースを出店し、知名度を高めたことも記載されています。

看護師の採用につきましても、概要版の一番下の部分に、採用試験の内容で、小論文試験を廃止し、他の病院に先駆け4月から複数回試験を実施することで、より受験しやすい体制を作り、看護師の数を増やすことに努めた結果、19人増員されました。

参考資料21ページを見てください。上から4つ目の項目に、困難度があります。困難度は「高」を設定されていますが、医師や看護師の確保は、厳しい勤務環境、ワークライフバランスの両立の難しさから、非常に困難な状況であるため、計画の達成が困難と考え「高」としたのではないかと思います。

18項目ある小項目の中で困難度が高いのは3項目だけですが、説明したことを踏まえると、Sでも良いのではないかと思います。

○藤本委員長

ありがとうございます。病院の評価「a」ですが、試験の制度変更等、全国的に看護師不足という中で頑張っているという点です。

他にご意見ある方いらっしゃいますでしょうか。

○杉原委員

すみません、数値の確認をお願いします。資料2の18番、経営指標にかかる数値目標の設定です。

経営収支比率、令和6年度の記述で、目標値が経営収支96.6%以上で、実績値で96.9%達成、達成率が100.3%となっているわけですが、業務実績報告書40ページを見ますと、中期目標の経営収支比率100%以上の数値目標を設定するとあって、年度計画のところに、やはり第3期中期目標期間における経営収支比率100%以上を目指しますとありますが、令和6年度の目標値は96.6%とあります。年度計画の方が重視されるべきなのかなと思ってしまっているのですが、どちらを採用すべきでしょうか？目標値として。

○降矢課長

事務局の方からご説明します。事前に病院の方とも確認済みです。表記の仕方が委員に分かりにくい部分があったかと思いますが、説明を聞いている中では、年度計画のところに、その中期目標期間における経営収支比率100%以上を目指しますというところを記載していますが、あくまで年度評価につきましては、現在の物価の状況や診療報酬の状況を踏まえて、目標値を立てているということです。

ですので、年度計画における年度評価の数値は資料2に記載しています、96.6%ですとか100%未満のものを、実際には立てておりまして、最終的に、中期目標の一番上に書いてあ

る最終年度の目標としては100%以上を達成していくという考え方の中で、目標の管理をしていると聞いています。以上です。

○杉原委員

すみません、ちょっとよく分からないんですけど。読み手側からすると誤解が生じかねないので、その辺は説明書き等、丁寧な書きぶりをお願いします。

○降矢課長

ありがとうございます。

○藤本委員長

他にはいかがでしょうか？

○青山委員

今の18番のところですが、今の説明から、診療報酬の状況や人件費の人事委員会勧告、人件費の増加を考慮して目標値を修正されたのかなという風に思います。

当初の目標を上回っており、達成率100%超えていますので、あえてB評価としなくても、最初からそういう状況を考慮して目標立てられてるんで別に、A評価でいいと思います。

○降矢課長

ありがとうございます。おっしゃる内容につきましては、先ほどの資料1で説明させて頂いた部分になるかと思います。細目評価の基準のところでした、目標値のある項目、目標値のない項目についてそれぞれ評価基準を定めております。

今回のご指摘は、目標値のある項目であるので、BではなくてAではないかというお話として理解しましたが、他の目標も含め、病院からお伺いしたお話としては、病院さんからは経常収支が赤字になったことを非常に強く捉えていただいていると伺っており、目標値のみで評価するよりも、全体的な中期目標に対する捉え方を示していただいたということで、目標値のない項目の中でSからCの中のどれを適用したかという事で、赤字を捉え、計画の水準を下回っているという評価をしたものが提出されました。

市としましては、病院さんの考え方を考慮した上で資料を提出しましたが、今後評価委員会の中で評価を頂くにあたりましては、実際の取り組みの中の目標に達する過程なども含めて諸項目の評価、意見を頂くこととなりますので、そういったところを踏まえてご意見頂けたらと思っております。

○藤本委員長

単純に数字だけで評価する事なく総合評価というところがあるんですけども、今おっしゃった今後というのは来年度の事ですか？今回の評価でよろしいですか？

○降矢課長

今回、今日と次回頂く中で評価をご意見頂けたらと思っております。

○藤本委員長

全国的に病院はどこも経営苦しくて、大学病院の赤字も最近報じられたところですし、プロセスで言いますと、コロナで一旦逃げた患者さんが戻って来るかどうか心配していたところで、戻ってきたと。

コロナの補助金が無くなった後どうなるかっていうのを心配していた部分は、努力されたかなという印象があります。

ただ、光熱費ですとか人件費ですとか、物価上昇は、病院の努力だけでどうにもならない部分もあるかなと思うんですけども、あまり私は意見言えないですけど、いかがでしょうか？

青山先生からは、他の病院も大変だという事、Aで良いんじゃないかというお話でございます。

他はいかがでしょう

○竹内委員

清水医師会の竹内です。実績は本当に立派なものでございます。ずっと黒字で赤字になったということも、今まで赤字じゃなかったのが不思議なぐらいの感じでよくやっていると思います。

すごく気になるのは、さくら病院とか、厚生病院とか、色々こうやっているんですけども、私は清水区なんですけれども、清水病院ですね。

そういう立場からしますと、静岡病院と清水病院の仲があまりよくなく、お互いに話し合うのが全然なくて、こちらはすごくいいんですけども、清水病院の方が何かちょっと孤立してる様子もあって、これから先、病床が減るとかそういうような静岡市全体としての問題が出てくるとですね、静岡の市の病院が2つあって良いのかとか、そういう議論も出てきかねない。

そういう意味ではですね、静岡病院にとっても清水病院の問題っていうのは、ひとごとではない事態がそのうち来ると思いますんで、そこら辺をどうするかっていうのを全体をま

とめるような、全体で話し合う機会を、年に1回ぐらいでも良いですからね、何かまとめて頂きたいという風に私は思っております。

以上です。

○藤本委員長

竹内さんありがとうございました。11番のですね、地域の医療機関との連携というお話に成ろうかと思えます。

○降矢課長

先ほども、静岡病院の方から、色んな病院との連携というところで意見を頂いたところですけれども、今回は特記事項としては記載されてないところにはなりますので、また、病院さんとも、市の事務局ともしっかりお話をしたいとは思っていますが、病院の方で何かコメントを追加するところがあればお願いしたいと思います。

○小野寺理事長

小野寺です。清水病院のスタッフと話をするという機会がないですけれども、実際には上牧病院長とは、時に話すというそういう機会があります。

で、清水病院が赤字がかなり大きいという事は、私も承知しております。ただ、病院長から助けて欲しいという、赤字についてそういう事を伺った事はないので、それはまた、静岡市の方で、そういう場を設定されるかという事になろうかという風に思っております。

○降矢課長

ありがとうございます。市としてもそのように連携していきたいと思っております。

○藤本委員長

ありがとうございました。公立病院全体の経営が厳しいなかで、しかもあまり採算の取れないと言われる救急に力を入れるなかでですね、ここはよくやっておられると思います。

○鈴木委員

静岡市の一診療所の医師としてですね、静岡病院さん、本当にお世話になってますし、全くもって問題は無いんだろうと思ってます。

この赤字の原因は構造的な問題だと私も思っております。我々の診療所もそうなんですけれども、これに関してはB評価、これは自己評価なので、相対評価でもなければ絶対評価でもなくて自己評価なんですから、これに関しては、単年度の黒字を目指されてるという、

なかなか厳しい目標に対して、今回はBという評価だという風に認識しておりますので、ご自身に厳しいんだなという感想だけです。以上です。

○藤本委員長

ありがとうございます。そのほかご意見いかがでしょうか？それではですね、委員の皆様ありがとうございました。

本日皆様からいただいたご意見を事務局でまとめとして、この時間の委員会でこれを確認し、委員の皆様の意見としてまとめていくことにいたしますけれども、いかがでしょうか。ありがとうございます。それではそのようにいたします。最後事務局からの報告がございましたらお願いいたします。

○宇佐美主査

皆様ご意見ありがとうございました。次回の委員会ではですね、本日の皆様の意見を元に事務局で意見書を作成させていただきます。

合わせて市の評価案も示しまして、それを元に議論いただきたいと思いますと考えております。以上です。

○藤本委員長

ありがとうございます。

では最後に、その他として事務局から何かございますか？どうぞ。

○齊藤主任主事

事務局から1点失礼します。本日の評価委員会にご参加いただくにあたりまして、静岡病院さんの駐車場をご利用された方がいらっしゃいましたら会議終了後、駐車券をお預かりいたしますので、その点よろしくお願いいたします。

○藤本委員長

それでは、委員の皆様から何かございましたらよろしくをお願いいたします。進行を事務局にお返しいたします。

○齊藤主任主事

それでは本日の議事を以上といたしますので、閉会といたします。委員の皆様方、ご審議ありがとうございました。

第2回委員会は8月6日水曜日の夜7時15分を予定しております。会場は本日と同様、静岡県産業経済館3階第1会議室、同じ部屋になりますので、よろしくお願いいたします。

以上を持ちまして令和7年度第1回評価委員会を閉会させていただきます。本日はありがとうございました。